

# 深浦会東京だより

第16号  
深浦会東京 事務局  
〒154-0011 東京都  
世田谷区上馬4-23-7  
トボス、M. 駒沢102  
TEL 03-3418-0914  
FAX 03-3422-0483

## 第9回定期総会・交流会

### 『東京深浦まつり』盛大に開催

「深浦会東京」の第九回定期総会・交流会は、本年6月24日午後1時から東京品川区立総合区民会館「きゅりあん」で、関東在住を中心とする深浦町出身者で構成する会員約三七〇名が、またふるさと深浦町から平沢町長をはじめ町議会や農協、漁協、商工会などの各団体から約四五名が出席され、盛大に開催しました。

「定期総会」では、平成12年度活動・会計・監査報告及び平成13年度活動計画や予算案を審議し、議案通り承認されました。平成13年度活動は、①会報「深浦会東京だより」の発行年二、三回程度②深浦町「広報ふかうらへ」拜啓 ふるさとに寄せてへの寄稿③深浦町「広報ふかうら」の購読案内の継続④第八回「ちびっこ交流会」の開催(12月下旬、1月上旬の冬休み期間) 於・東京都ドナルド・ティビット氏(東京都在住)が、七人

交流会では、深浦町の振興アドバイザーやパトナーとして活動する「のぼる夕日の深浦大使」の認証式が行われ、元深浦町英語指導助手のマクドナルド・ティビット氏(東京都在住)が、七人



黒滝会長の挨拶



平沢町長の祝辞

### 盛り沢山の催しで活況 ふるさとから45名の参加

(電気祭り等々) ⑥「深浦出身のお相撲さんを励



ふるさと物産展 (つるつるわかめ、岩のり、もずく etc)



わあ、なつかしいじゃ



調理方は大いそがし



平沢町長を囲んでハイチーズ!!

交流会の会場には、風合瀬漁協の婦人部のみなさんがつくった、深浦からの直送便のサザエやヒラメの刺身、タケノコのすしや笹餅、モズクのみそ汁などの「郷土料理」がテーブルいっぱいになり、参加者はそれぞれに懐かしい料理に舌鼓を打ちながら久しぶりに会う友達らと記念撮影したり、近況を楽しそうに語り合っていました。

「のぼる夕日のふかうら大使」の二代目藤田周次郎氏が民謡を披露されたほか、恒例のウエスバ椿山コテージの宿泊券や深浦特産が当たる抽選会など盛り沢山の催し物が行われ、大盛況のうちに終了しました。楽しい一時を過ごした参加者は、全員で「ふるさと」を大合唱したのち互いに来年の再会を約束して、会場を後にしました。



### 深浦会東京総会交流会

民謡歌手・二代目藤田周次郎氏による熱演



あんこうのともあえ、平目の刺身、さざえの壺焼きなど、ふるさとの味に舌鼓



福引き大会にて大当たり

### ふるさとから参加して

平地でも初雪が観測され、寒さが一段ときびしくなりました。深浦会東京会員の皆様には、その後お変わりなくお過ごしのことと思います。おかげさまで、私たち風合瀬漁協婦人部一同も皆元気で働いております。

初めて参加させていたいただきましたが、参加者の多さ、交流会の盛況ぶりにただただ驚くと同時に、会員の皆様の故郷への強い思いを実感致しました。あれから、あつという間に5ヶ月が過ぎてしまいました。今は良い思い出となっています。さて、風合瀬漁協でも来年の連休を目に、鳥居崎に物産販売店をオープンする予定です。海の幸、山の幸をふんだんに利用し、また旬の材料を生かした最高の味で、深浦を訪れる皆さんにお召し上がりいただくため、日々研修を重ねています。

驚きの交流会の盛況  
会員の故郷への思い実感  
風合瀬漁協 婦人部長 山本睦子

最後にりましたが、役員の皆様、町長はじめ企画課の皆様方には、大変お世話になりました。未熟な私にはありましたが、こんなに楽しく良い機会を与えてくださり、婦人部を代表して心からお礼申し上げます。本当にありがとうございます。



# 『深浦のお相撲さんを励ます会』 第1回総会のご案内

今年も残り少なくなり、何かとあわただしい時期になりました。

この会報が皆様のお手元に届く頃には、一年納めの十一月場所の結果が出た後になります。私は今6日目の取り組みをテレビ観戦しながらこの原稿を書いています。

5日目までは海鵬関、安美錦関、安壮富士三人とも出足好調。特に先場所大活躍をした海鵬関はこの場所も絶好調。新小結の難しい位置ながら、横綱武蔵丸関に負けただけの四勝一敗。今後を大いに期待させます。

さて、『深浦のお相撲さんを励ます会』の総会開催を年内にという目標にしており

ましたが、幹事不手際で年内開催が出来なくなりました。

誠に勝手ながら、初場所終了後の最初の土曜日二月二日に新年会を兼ねて、左記の通り開催致します。

お相撲さん三人ともご出席頂けるよう、交渉しておりますし、関取の手形サイン入り色紙の頒布なども予定しています。

文字通りお相撲さんを励ますと共に、初場所の成績を肴に大いに親睦をはかりたいと思いますので、会員以外の方もお知り合いの方々お誘い合わせの上、是非ご出席下さい。

来春浅草でお会いしましょう。

記

- 一、名称 『深浦のお相撲さんを励ます会』総会及び新年会
- 一、日時 2002年2月2日(土)17時/受付開始 16時30分
- 一、会場 浅草ビューホテル 4階 駒形の間
- 一、会費 1名 1万円

会員以外の方は、お手数でも下記宛お葉書で、平成14年1月15日迄に参加人数をお書き添えの上お申し込み下さい。

〒271-0092 松戸市松戸579-1-502 久慈 論吉(会長) 行

# 第10回定期総会・交流会 の日程決まる!! 平成14年4月13日(土)

お陰様で当会は来年で満10周年を迎えます。詳しくは、次号の深浦会東京だよりでご案内させていただきますので、日程調整のうえ、是非ご出席下さいませう。お願い致します。

## 『0対122 けっぱれ! 深浦 高校野球部』刊行のご案内

一九九八年夏、青森県宮球場。名門東奥義塾と部員わずか一〇名の深浦高校のスコアは〇対一二二。この前代未聞空前絶後の試合結果に全国の野球ファンは、あきれ果て、マスコミも面白おかしく書き立てまし

本書は、この試合の敗者、深浦高校の超ヘッポコ野球部員たちと、熱血青年監督・工藤康憲氏を主人公に、中傷やからかいにもめげず、幾多のハンデをのりこえて、勝利を夢見て頑張った彼らの日常を追った「泣き笑い」青春物語です。ごくごく普通の高校生が、全国の好奇の的になり、ある時は落ち込み、またあるときは監督に叱られながらも、徐々に力をつけ、人間の成長していく様子は、読む者にすがすがしさと共感を覚えさせます。都会の子供たちがとうに失ってしまった素朴さ、ひたむきさ、友情が、ここにはあります。工藤監督の情熱あふれる指導ぶりも、人間味あふれていて爽快です。

著者の川井龍介氏は、毎日新聞記者、日経ビジネス編集部を経て、現在はフリージャーナリストとして活躍する気鋭の書き手です。何度も深浦に足を運び、根気強く彼らと会話を重ねながら、この物語を書き上げました。

まずは、ご覧いただき、お気に召しましたら、是非ご吹聴いただきたく存じます。

本書に関するお問い合わせは、講談社学芸図書出版部 渡瀬昌彦 03・5395・3522 E-mail: m.watase@kodansha.co.jp

## チビッコ交流会開催のお知らせ

深浦町と深浦会東京との交流事業のひとつ、チビッコ交流会を下記のとおり開催することにしました。東京での実施は今回が初めて。深浦町から参加するチビッコも決まり、みんな楽しみにしているところです。この活動を通して、深浦町と深浦会東京のチビッコ達の交流が末永く続くよう、サポートしていきたいと思ひます。

- 【日程】 実施日 12月24日(月)～28日(金) 夜行バスにて上京
- 参加人数 深浦町16名 深浦会東京4名
- 内容 下水道見学 ディズニーシー 大田市場見学 他

## 事務局からです

- 1. 年会費の納入のお願い** 総会・交流会に参加できなかった方は、平成13年度分の年会費1,000円のお振込みをお願い致します。昨年度は、230名の方からお振込みを頂いております。振込手数料はいりません(当会負担)。詳しくは事務局にお問い合わせ下さい。
- 2. 「広報ふかうら」購読申し込みご希望の方へ** 深浦町で毎月発行しており、ふるさとの情報がいっぱい会員には大好評です。購読希望の方は、年間購読料2,000円をお振込み下さい。振込手数料はいりません(当会負担)。詳しくは事務局にお問い合わせ下さい。
- 3. 投稿のお願い** 広報ふかうら「深浦会東京だより」への投稿を募集しております。内容は一切問いません。活字数…600字位(写真貼付)。事務局までご郵送下さい。投稿者には、テレホンカード(深浦の風景)を贈呈いたします。
- 4. 住所変更、姓名が変わった方は忘れずに事務局迄連絡してください。**
- 5. 名簿提出のお願い** 同期会、同窓会等の名簿を事務局迄願ひします。
- 6. 会報への「広告」を募集しています。** ご希望の方は事務局迄ご連絡ください。(1口1万円より)

## ◆連載◆ 深浦の歴史⑤ 今甦える中世戦国の深浦

深浦町文化財審議委員 森山嘉蔵  
4. 南部氏の津軽侵攻

◆内容を前号③葛西木庭袋と千葉弾正合戦より百年ほど時代を遡らせ、津軽藩始祖の大浦光信から記述していく。

①三戸南部氏の津軽支配  
嘉吉三年(一四四三)、三戸南部氏の十三代守行と、その嫡男義政の率いる南部騎馬軍団の、激しく永い攻略によって、二百数十年に亘って津軽を支配して来た安藤氏、日之本將軍安藤康季は、一族郎党と共に、蝦夷ヶ島(北海道)に敗退した。

津軽の支配者となった三戸南部氏は、一族や有力武将を派して、外ヶ浜(津軽半島東側)、田舎郡、平賀郡、鼻和郡、西浜の経営に当たったが、安藤氏二百年の統治を受けた土豪・地侍・悪

党・名主・百姓の支配は容易でなく、騒擾と不安の常態であった。遂に、南部統領二十代信時は、三陸海岸北端の豪族、久慈南部氏の光信を、最も安藤勢力の残存する西浜、鼻和郡への入部を決定した。

党・名主・百姓の支配は容易でなく、騒擾と不安の常態であった。遂に、南部統領二十代信時は、三陸海岸北端の豪族、久慈南部氏の光信を、最も安藤勢力の残存する西浜、鼻和郡への入部を決定した。

出羽河北郡の深浦郷辺りまでをその支配領域としたのであった。

ところが、この間に、三戸南部氏の別勢力が津軽に進攻し、鼻和の地を窺う時流を悟った光信は、現有の全勢力をもって、岩木川近くの賀田・鼻和の地を選定し、文龜二年(一五〇二)、大規模な平山城を築造し、大浦城としたのである。

城主には嫡男盛信を配し、種里城で養成した過半数の将兵を、即戦力として率いさせ、新根拠地に定めた大浦城に移居させたのである。同時に、苗字も南部から大浦に替え、大浦信濃守光信と名乗ったが、光信自身は出羽勢の津軽侵攻に備えて種里城に留った。

参考、この頃の吹浦(深浦)湊に、明応六年(一四九七)、前関白近衛尚通が陸奥に中央の戦乱を逃れ来たのを、この湊で光信に迎えられ、大浦に旅の館を建てて奉仕したとか。或は、種里八幡宮初代の奈良主水貞親は、永正十五年(一五一八)、越の国から船で吹浦に着き、ここで大浦光信に会って近侍に成った。などの古文書等が残されているが、その真偽性については種々と云われている。